

日本作物学会における男女共同参画をめざして

2008年9月23-24日 神戸大学

日本作物学会では、男女共同参画を推進するため、2008年度より男女共同参画ワーキンググループをスタートさせました。2008年度には、学会における女性比率の実態調査を既に行い、今後、他学会からの情報収集を行いながら、男女共同参画のための行動方針を決めていく予定です。

学会における男女比率調査結果

(2007年度末の学会名簿により調査、学生会員については留学生は除く)

一般会員： 総数1080名中
女性会員 82名 女性割合 **7.6%**

学生会員： 総数174名
女性会員 50名 女性割合 **28.7%**

学生会員は、今後研究者として活躍が期待される会員と考えられます。しかしながら、一般会員の中の女性会員との割合の差は、非常に大きいのが現状であることが明らかとなりました。右の図1(星印が日本作物学会)を参照すると、格差が非常に大きい学会であるといえます。また、理学生物系の中では、一般会員の女性比率が非常に低い学会であることもわかります(図2)。

(参考1) 日本育種学会 一般会員の女性比率12%、学生会員28%。

(参考2) 東京大学(農) 女性教員割合6.5%、女性学生割合25.6%(学部)、33.5%(修士)、30.4%(博士)。

(参考3) 九州大学(農) 女性教員割合5.5%、女性学生割合39.8%(学部)、36.4%(修士)、28.2%(博士)。

今後、学生の女性割合と研究者(一般会員)の女性割合との差がなぜ生じるのか、作物学においてとくに特殊な事情はないのか、等について調べつつ、女性、特に若い女性大学院生が希望を持って研究者としての道を歩めるよう、その差を少しでも縮める活動を当WGは進めていきたいと考えています。

次回講演会では

2009年春の講演会において、日本育種学会男女共同参画推進委員会との共催でセミナーや保育室の設置を行う予定です。
ご参加・ご利用、よろしく申し上げます。

図1. 各学協会における女性比率の分散と格差

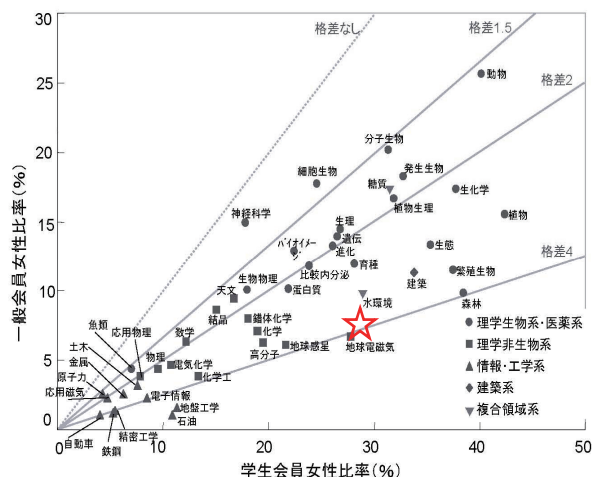
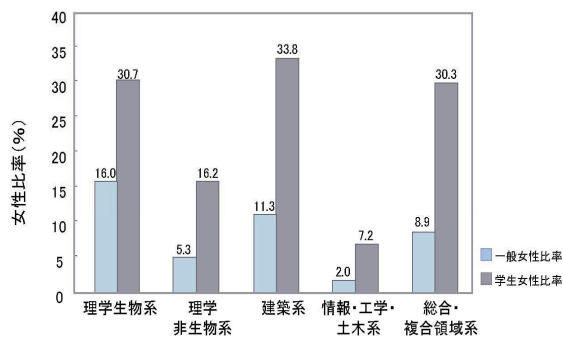


図2. 各系における平均女性比率



「男女共同参画学協会連絡会加盟学協会における女性比率に関する調査」(2007年8月・男女共同参画学協会連絡会より)

日本作物学会
男女共同参画WG